



特集 矢板で 矢板で すごす。 くらす。

本市をはじめ多くの地方では、人口減少、少子高齢化が進む中、都市部への転出超過の傾向が今もなお続いています。このまま人口が減り、地域の担い手が不足していくと、魅力ある観光資源や先人が築いてきた伝統文化も途絶えていくことが懸念されています。それぞれの地域において、地域力の維持や強化を図るため、都市部の学生などを対象とした交流事業や移住施策を行っています。地域外の力を取り込み、地域の担い手不足を解消するためには、それらの取り組みをさらに加速させることが重要となっています。

今号では、移住を検討している方を温かく迎えるため、本市で行っている「交流・移住施策」についてご紹介します。

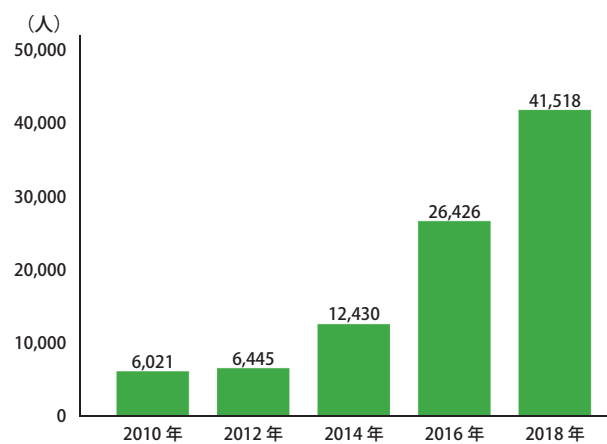
移住希望のある若者が増えています

移住相談の窓口となっている NPO 法人ふるさと回帰支援センターによると、年々、セミナーへの参加や電話などによる問い合わせの件数は増加傾向にあり、2018 年には 4 万人を突破しました。利用者の年代別推移では、子育て世代である 20～40 代の利用割合が伸びており、若い世代の移住に対する意識が強まってきていると言えます。特に家族での移住を検討する方が増加しており、そのため、住まいや子育ての環境、移住先での仕事が重視される傾向があります。

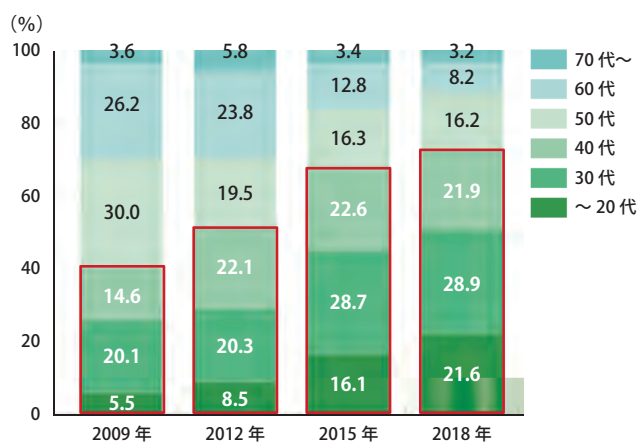
本市は、自然の豊かさと便利な都市機能のバランスに優れており、移住を検討する方に十分 PR できる魅力があると言えます。

◆ふるさと回帰支援センター利用状況

◀ 来訪者・問い合わせ推移 ▶



◀ センター利用者の年代の推移 ▶



これからの交流・移住施策のあり方

都市部から地方への移住の相談・問い合わせが多くなっている一方で、多くの人は必ずしもすぐに移住できる状況ではないという現実があります。このような認識を踏まえた今後のあり方について、次のようなことが必要であると考えています。

①段階的な交流・移住を支援する

ライフステージに応じたさまざまな交流の入り口を増やし、地域住民との交流の機会を積極的に創出し、将来の移住・定住を促す仕組みを整える。

②「ふるさと」への思いを受け止める

特定の地域に限らず、「ふるさと」に思いを寄せ、継続的に関わりを持つことを通じて、貢献しようとする人たちの動きを受け止めるための新たな仕組みをつくる。

③地域における環境を整える

②の新たな仕組みを機能させるため、「関係人口」と地域の間でそれぞれの思いやニーズを把握し、継続的につなぐ新たな仕組みを構築する。

地域の皆さんの協力が必要です！

昨年6月から矢板駅前に開設した「ふるさと支援センター TAKIBI」は、地域を活性化するという目的のために、市外との交流や移住者の受け入れにも取り組んでいます。

そのため、集落支援員を2人配置し、移住を考えている方に寄り添った支援ができるよう活動をしています。

移住を希望する方は、矢板市で望んだ生活を送るための身近な情報への関心が高いことから、地域の皆さんの情報提供などの協力が必要不可欠となってきます。



現在、ふるさと支援センターでは、移住希望者の理想に合う住まい・仕事などを提供できるように地域の情報を集めています。

- ・ 空き家の情報や利活用のための相談など
- ・ 就農希望者を迎えるための農地
- ・ 仕事に関する情報
- ・ 地域にいる先輩移住者の情報 など

小さなことでもかまいませんので、お住まいの地域の情報をお寄せ下さい。また、移住などに関する提案やアドバイスなどがありましたら、ぜひご連絡ください。お問い合わせ／

ふるさと支援センター TAKIBI (総合政策課内)
☎ (43) 1112 ☉ info@takibiz.com

矢板を知る

～知ってもらうための情報発信～

【矢板市移住定住応援サイト】

移住定住専用サイトを立ち上げ、移住のための支援制度の紹介や住まい、子育てなどの情報を発信しています。また、移住に伴い働く場所を探している方や新規で農業を始めたい方のために、詳しい情報を掲載しています。



詳しくはこちら

【移住相談会】

首都圏に出向き、移住を考えている方に本市の魅力を伝えるとともに相談を受けるコーナーを設けています。



矢板とつながる

～訪れ魅力を知ってもらう～



【魅力体験ツアー】

就業支援事業の一環として、県内外の大学生などを対象に、実際に矢板に足を運び、魅力や自然を体験してもらうことで、本市への関心を高める機会を設けています。今年、「魅力体験ツアー」として、おしらじの滝の見学やリング狩りなどの観光体験をしたほか、地域で働く方たちからお話を伺い、交流することで、矢板で暮らすこと、働くことを考えてみるきっかけをつくることができました。

【そばオーナー制度】

「そばオーナー制度」では、農業に興味を持つ方に農業体験の場を提供しており、そばの種まき、収穫、そば打ち講習会などを体験することができます。

作業は、蕎友蕎楽の会の方たちが親切丁寧に指導してくれるので、初心者の方でも楽しく行えます。



ここでは、矢板市山田でゲストハウスを運営し、都市部などから訪れる方に、矢板の魅力を伝えている加藤弥生さんにお話を聞きました。

昨年6月からゲストハウスを始め、毎週、東京などからゲストが訪れます。この建物は、両親が所有していたもので、私が幼い頃から定期的に家族で泊りに来たり、掃除・草刈りに来たりと何度も訪れていました。両親が転勤族だったこともあり、私にとって「地元」と呼べる場所がなく、幼い頃から唯一変わらずにあるこの場所が大切な「ふるさと」であり、いつの間にか「心の拠り所」となっていました。

この場所は、ゲストも仲間たちも自分ができることを持ち寄り、協力しながらつくりあげていく、みんながいてこそその場所

WASHINKAN
オーナー 加藤 弥生さん

です。完成した物が完璧なものである必要はなく、関わった経験、そして形にしたという楽しみが味わえる場所だと思っています。

私だけではなく、訪れてくれるゲストや運営を手伝ってくれる仲間たちにとっても、ここが特別な場所となってくれることを願っています。地域外の方と大好きな矢板をつなぐ場所となり、新たな出会いが生まれればうれしいですし、これからも矢板の魅力を多くの方に伝えられたらと思います。



WASHINKAN
ホームページ

矢板に滞在する

～暮らしてみる～



【おためしの家】

矢板市農業公社が運営する「おためしの家」は、築100年を超える古民家で、1カ月単位でゆったりとした田舎暮らし体験をすることができます。古民家には囲炉裏や土間などもあり、自由に利用することができるほか、農家の方から丁寧に教えていただくことができる農業体験もできます。



詳しくはこちら

アドレス 【ADDRESSの家】

2019年4月にスタートしたADDRESSは、空き家や別荘を活用した全国各地の物件に、月4万円からの定額制で自由に住むことができる多拠点コリビングサービスです。その1つの拠点として矢板市玉田にある別荘をリノベーションした「ADDRESSの家」が完成しました。

ADDRESSは、全国の主要都市から1～2時間で行けるような自然や歴史豊かな地方に注力し、空き家や別荘、古民家、民宿など一軒家を中心にリノベーションをし、都市部に居を構える方たちに快適な自然、日本の豊かな歴史を体験してもらえるように拠点を開発しています。

好きな時に、好きな場所で、暮らしたい

都市と地方の複数の拠点で生活をしたい

その土地で暮らす人たちと出会い、交流したい

リモートワークをしながら、各地の自然とふれあいたい



詳しくはこちら

元 地域おこし協力隊
神崎 裕樹さん



昨年末で、3年間の活動期間を終え、地域おこし協力隊員を退任しました。在任期間中は、矢板市に県内外のスポーツチームの合宿を誘致する「合宿コーディネーター」として活動し、退任後も今までと同じように仕事として事業を続けていくつもりです。

いつもの場所が、いくつもある、という生き方。

ADDRESS

今回、矢板市に県内初のADDRESSの家が完成し、家守を引き受けさせていただくことになりました。家守とは、ADDRESSの家での滞在の受け入れや周辺のお店の紹介など日々の暮らしをサポートするコミュニティ

ADDRESSの家で訪れた方をおもてなしする家守となった、元地域おこし協力隊 神崎裕樹さんに意気込みをお聞きました。

マネージャーで、地域との交流の機会やユニークなローカル体験、その地域に暮らしているからこそ分かる情報を提供します。それぞれの物件には個性あふれる家守がいるとのことなので、私自身も地域おこし協力隊員として培った経験をもとに、地域に住む人と訪れる人の架け橋となりコミュニティを作っていきたいと思っています。そして、矢板に愛着を持ってくれた方が矢板への移住を決めてくれたらいいですね。

